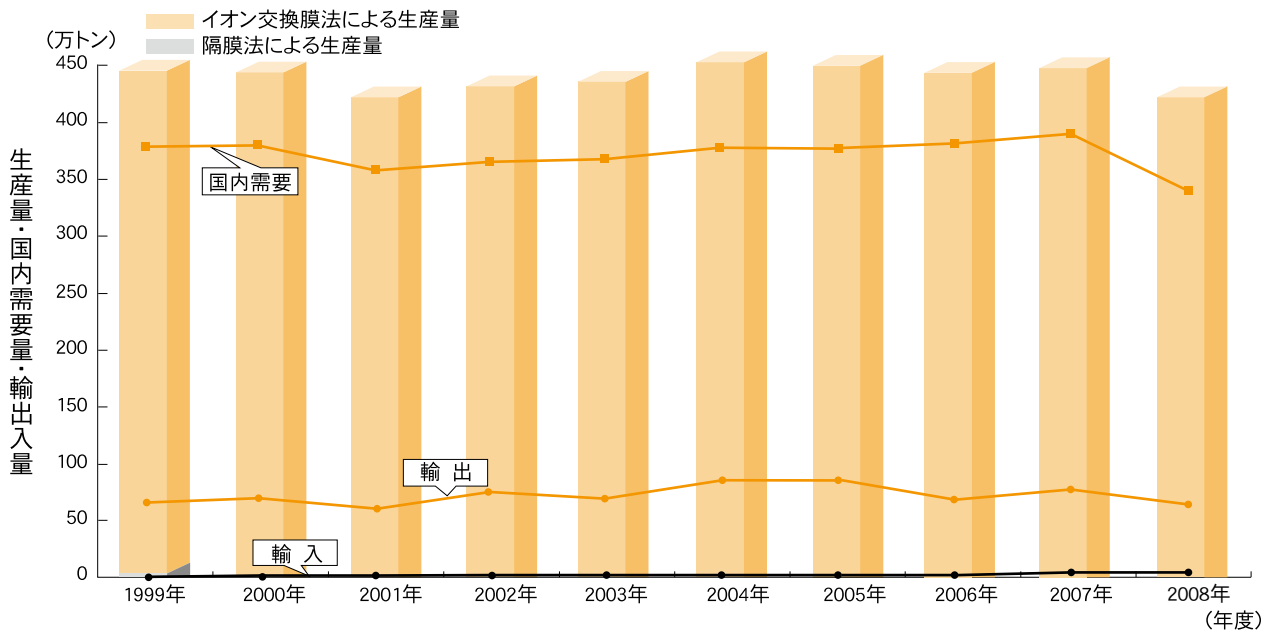


カセイソーダの需給推移



(単位: トン / 97%換算、構成比%)

年度	生産				計	輸入	需要			在庫
	隔膜法		イオン交換膜法				内需	輸出	計	
	生産量	構成比	生産量	構成比						
1999年	27,153	0.6	4,417,611	99.4	4,444,764	1,026	3,770,137	636,870	4,407,007	132,131
2000年	—	—	4,430,423	100.0	4,430,423	3,435	3,786,558	678,951	4,465,509	100,480
2001年	—	—	4,214,230	100.0	4,214,230	3,907	3,617,981	553,507	4,171,488	147,130
2002年	—	—	4,349,470	100.0	4,349,470	4,474	3,689,670	688,133	4,377,803	123,270
2003年	—	—	4,379,302	100.0	4,379,302	3,484	3,700,760	656,075	4,356,835	149,218
2004年	—	—	4,539,828	100.0	4,539,828	4,109	3,794,984	753,749	4,548,733	144,434
2005年	—	—	4,511,868	100.0	4,511,868	3,831	3,790,772	730,270	4,521,042	139,078
2006年	—	—	4,468,688	100.0	4,468,688	7,364	3,792,926	641,524	4,434,450	180,649
2007年	—	—	4,487,328	100.0	4,487,328	13,335	3,861,857	693,332	4,555,189	126,169
2008年	—	—	4,128,774	100.0	4,128,774	20,383	3,485,747	629,803	4,115,550	159,778

注1) 輸入量は財務省貿易統計をベースにして算出しているが、一部推定の部分がある。

注2) 内需は輸入を含む。

カセイソーダは基礎素材製品であり、需要分野が非常に広い。その需給動向は国内景気に大きく影響され、カセイソーダの生産量推移(指数)は、実質国内総生産(GDP)の推移(指数)とほぼ連動します。

2008年度のカセイソーダの需給状況は、年度当初から夏までは上昇傾向を示していましたが、9月以降、急激な景気減速の影響を受けて、一転減速し、そのまま年度末まで、減少幅が拡大しながら推移しました。

2008年度のカセイソーダの生産量は、年度後半では

大幅に減少しましたが、8月までの伸びに支えられ、結果として、4,129千トンと、前年度比8%の減少に止まりました。この生産量は、10年前の水準となります。

また、需要量は、国内需要が前年度比9.3%減の3,486千トンとなり、14年振りの3,500千トン割れとなりました。

一方、輸出は、前年度比9.2%減の630千トンで、国内需要と合わせた総需要は、前年度比9.7%減の4,116千トンとなりました。これは、12年前の水準となります。